

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会については、毎年3月31日です。その他必要があるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
期末配当の基準日	毎年3月31日
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先	0120-288-324(フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00(土・日・祝日を除く)
公告方法	電子公告により行う。
公告掲載 URL	http://www.sbigroup.co.jp/investors/koukoku/

※ただし、事故等やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

単元未満株式の買取・買増請求のご案内

当社では2012年10月1日より、単元株式数を100株とする単元株制度を採用いたしました。

単元未満株式(1株～99株)をご所有の場合、「単元未満株式の買取請求」により当社に買取請求し、売却することができます。

また、「単元未満株式の買増請求」により、当社から単元株式数(100株)に不足する数の株式を買増請求し、100株単位とすることもできます。

この制度をご利用になる場合は、右記の口座管理機関へお問合せください。

なお、上記買取・買増請求以外に、単元未満株式の独自の取引サービスを取り扱っている証券会社もございます。詳しくは、お取引の証券会社へお問合せください。

※ お手続きにあたり、お取引の証券会社等より手数料を請求されることがあります。また、期末等の基準日前の一定期間ならびにその他受付停止期間が設定された場合、買取請求および買増請求の受付を停止いたしますので、あらかじめご了承ください。本案内は単元未満株式を保有されている株主の皆さまを対象に、株式に関する諸手続についてご案内するものです。特定の証券会社との取引の勧誘や、単元未満株式の買取請求または買増請求の勧誘を目的とするものではありません。これらについては、必ずご自身のご判断により行ってくださいますようお願い申し上げます。

① 証券会社の口座に記録された株式をお持ちの株主様



お取引の証券会社へお問合せ
ください。

② 特別口座に記録された株式をお持ちの株主様



上記「株主メモ」に記載のみずほ信託銀行証券代行部へお
問合せください。

SBIホールディングス株式会社

〒106-6019 東京都港区六本木一丁目6番1号
TEL：03-6229-0100
E-mail：inquiry@sbigroup.co.jp

〈免責事項〉

この報告書に記載されている、SBIホールディングス(株)および連結子会社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実のないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは各資料発表時点においてSBIホールディングス(株)の経営方針により、入手可能な情報およびSBIホールディングス(株)が合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものです。したがって、主要市場における経済情勢やサービスに対する需要動向、為替相場の変動など、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている見通しとは、異なる結果となり得ることをご承知おきください。



株主通信

SBIホールディングス株式会社

第16期 報告書

2013年4月1日～2014年3月31日

【証券コード：8473】

株主の皆さまへ	01
決算ハイライト	03
セグメント別業績の概況	04
特集：SBIグループ設立15周年	05
連結財務諸表	07
トピックス	09
会社概要・株式の状況	12
株主優待制度について	13
株主優待引換商品のご案内	14
株主メモ	15

15周年を目前に、営業収益は過去最高に。 そして、今後のさらなる成長に向けて。

SBI ホールディングス株式会社
代表取締役 執行役員社長

北尾 吉孝



大幅な増収増益となった連結業績

当社は2014年7月に設立15周年を迎えます。これもひとえに、株主の皆さまの格別のご理解とご支援の賜物であり、心より厚く御礼申し上げます。

当期（2013年4月～2014年3月）は、円安の進行や政府・日銀の財政政策・金融政策の効果等もあり、国内の景気は回復基調で推移しました。当社の投資、証券関連事業に大きな影響を与える国内外の株式市場は、国内主要市場（東京・名古屋）合計の個人株式委託売買代金が前期の2.4倍という高水準となり、海外においても米国の量的緩和縮小の影響や一部の新興国経済の先行きに不確実性が見られるものの、主要各国の株式市場は堅調に推移しました。

このような事業環境に加え、2008年のリーマンショック以降、長期にわたり続いた厳しい事業環境下において先を見据え推進してきた収益力強化に向けた様々な取り組みが功を奏し、当社の当期の連結業績は、営業収益（売上高）はすべてのセグメントで増収を達成し、日本会計基準での決算を開示していた期間を含め過去最高となる2,328億円（前期比51.7%増）となりました。また営業利益は、2014年3月期にIPOを果たしたバイオ関連銘柄の株価が第4四半期に大幅に下落したこと等から過去最高の更新とはならなかったものの、すべてのセグメントで増益を達成し、全体としても422億円（同154.7%増）と大幅な増益となりました。なお、税引前利益は389億円（同173.7%増）、親会社の所有者に帰属する当期利益も214億円（同569.6%増）となっています。

配当金について

当社は配当政策の基本方針として、年間配当金について最低配当金額として1株当たり10円の配当を実施し、持続的な成長のための適正な内部留保の水準、当面の業績見通し等も総合的に勘案し、さらなる利益還元が可能と判断した場合には、その都度引き上げることを目指しています。この基本方針と当期の連結業績を鑑み、当期の1株当たり期末配当金につきましては、前期比倍増となる普通配当20円としました。

1株当たりの配当金

	中間	期末	年間
2014年3月期	－	20円	20円
2013年3月期	－	10円	10円

持続的成長を実現するための重点施策

当社は今後も持続的に成長していくため、以下4点を重点施策とし、推進してまいります。

① 金融サービス事業において国内金融生態系内のシナジーをさらに拡大し、収益力の強化を目指す

国内金融サービス事業では「証券」「銀行」「保険」を中心に金融生態系を構築してまいりましたが、今後は当社グループ各社が保有する顧客データを「グループビッグデータ」として集約・分析し、最適なサービスの提供のため相互に活用することで、さらなる顧客満足度の向上、顧客基盤の拡大を図ってまいります。さらに異業種企業との提携などによりビッグデータの活用を進め、既存の金融生態系を超える企業生態系の実現を目指します。

個別事業においては、SBI損保は2016年3月期の通期黒字化に向け一層の収益力向上を図り、さらに国内保険事業全体としても持株会社への集約や再編の検討など、事業効率やシナジー効果を高めることで、早期のIPOを目指していきます。また、SBIグループの共通インフラであるSBIマネープラザでは、幅広い顧客層、金融ニーズに応えるビジネスモデルを構築するため、顧客層ごとに個別の施策に取り組むなど、各社、各事業でさらなる収益力の強化、シナジーの拡大を図ってまいります。

② 当社本来の事業価値の顕在化とROE（株主資本利益率）の向上を図る

当社グループは2010年7月以降、「ブリリアントカット化」を推進しグループ全体の収益力強化に取り組んでまいりました。当期は前期比で主要事業体のうち黒字会社・事業部の合計利益が約295億円増加し、赤字会社・事業部の合計損失が約29億円改善しました。今後も当社グループの本来の事業価値を顕在化させるため、ノンコア事業の売却、グループ内で最大限バリューを高めた上での株式公開、グループ内組織再編など事業の「選択と集中」を徹底的に進め、キャッシュ・フローの極大化を図ります。そして、創出したキャッシュを活用し、有利子負債の圧縮を進めることで、自己資本比率を高め、財政基盤を強固なものとしてまいります。さらに、今後はROE（株主資本利益率）をリーマンショック前の水準である20%程度まで向上させることを目指してまいります。

③ バイオ関連事業の早期収益化を目指す

ALA関連事業は、国内外で医薬品の研究開発が順調に進んでいるほか、国内だけでなくバーレーンや中国においても健康食品等の販売拡大に向けた取り組みが加速しており、早期収益化に向けて着実な進展を見せています。例えば医薬品開発では、2013年9月にSBIファーマ初の医薬品である悪性神経膠腫の術中診断薬『アラグリオ®』が国内で発売されており、またバーレーンではSBIファーマのALAを用いた術中診断薬と医療用光源装置を使用して世界で初めて膀胱がんの摘出手術に成功しています。このほか、ALAを使ったがん化学療法による貧血治療薬について埼玉医科大学で医師主導治験が開始されるなど、世界中の研究機関で様々な対象疾患でのALAを用いた効果に関する研究が行われています。

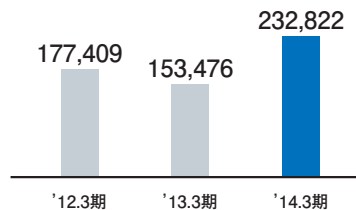
④ 金融サービス事業の海外展開を推進

当社グループでは今後、海外現地有力パートナーとの連携の下で、金融サービス事業の海外展開を推進していきます。最近では、2014年3月に上海自由貿易試験区で陸家嘴集団、新希望集団とともに準備会社「上海益陸望投資諮詢有限公司」を設立し、オンライン金融事業会社の立ち上げに着手するなど、アジアを中心に海外でも金融サービス事業を展開してまいります。

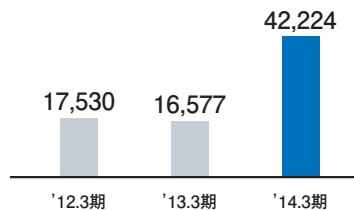
当社といたしましては、今後も持続的な成長を実現し、企業価値を向上させるべく、全役職員一同尽力してまいり所存でございます。

株主の皆さまにおかれましては、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

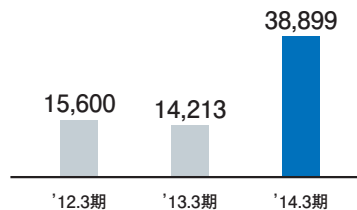
営業収益(百万円)



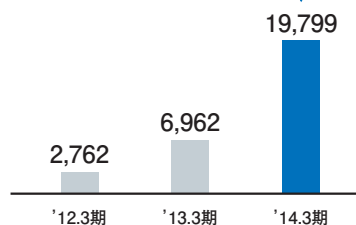
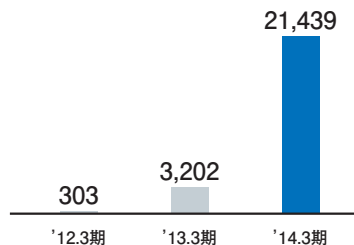
営業利益(百万円)



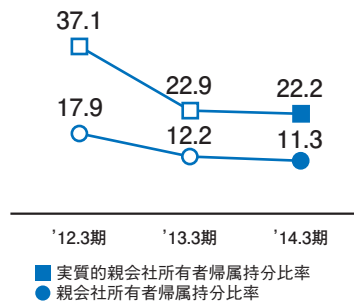
税引前利益(百万円)



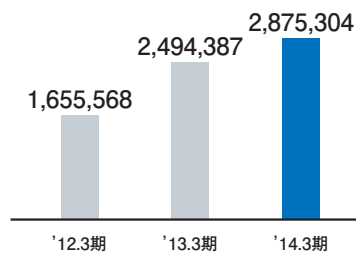
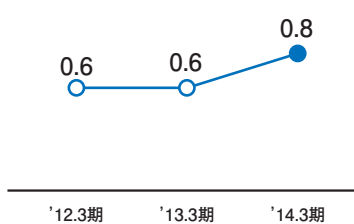
当期利益(百万円)

当期利益のうち
親会社の所有者への帰属分(百万円)実質的親会社所有者帰属持分比率^{注1}(%)

親会社所有者帰属持分比率(%)



資産合計(百万円)

PBR(1株当たり親会社所有者帰属
持分倍率)^{注2}(倍)

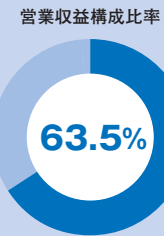
※ 百万円未満四捨五入

※ 当社は2013年3月期第1四半期より国際会計基準(IFRS)に基づく開示を開始しており、2012年3月期の連結業績はあくまで国際会計基準(IFRS)での業績比較のために作成したものです。

注1 証券会社特有の資産・負債勘定の影響を考慮した実質的な親会社所有者帰属持分比率

注2 当社は、2012年10月1日付で株式1株につき10株の分割を行っており、当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の数値を基に計算、表記しています。

■ 金融サービス事業

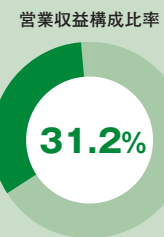
営業収益 **147,835** 百万円
(前期比 30.4%増)税引前
利益 **37,298** 百万円
(前期比 99.0%増)

市場環境の追い風を受け、これまで実施してきた収益力強化に向けた施策が奏功したこともあり、同事業は大幅な増収増益を達成しました。

グループ各社においても、SBI証券がすべての利益項目において過去最高を記録したほか、SBIジャパンネクスト証券やSBIモーゲージ、SBIマネープラザ、モーニングスターが過去最高益を更新しています。

また、SBI FXトレードは創業2年目にして通期黒字化を、SBI少額短期保険は創業以来の通期黒字化を達成しました。さらに持分法適用会社である住信SBIネット銀行も過去最高益を大幅に更新しています。

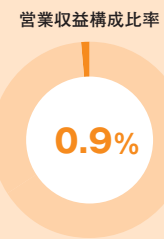
■ アセットマネジメント事業

営業収益 **72,725** 百万円
(前期比 125.8%増)税引前
利益 **8,990** 百万円
(前期比 65.0%増)

第4四半期において、保有するバイオ関連銘柄の株価が急落し約54億円の公正価値評価損を計上したことなどにより、通期の税引前利益を押し下げたものの、アセットマネジメント事業全体では、増収増益を達成しました。

韓国のSBI貯蓄銀行は、不良債権の売却など債権回収が順調に進んでいるほか、当社からの資本注入を受けて営業強化が可能になったことなどから、当社IFRS連結取り込みベースの税引前利益で約40億円を計上しました。引き続き正常資産増加と不良資産削減に注力し、収益力の一層の強化に取り組んでいます。

■ バイオ関連事業

営業収益 **2,195** 百万円
(前期比 126.3%増)税引前
利益 **▲2,432** 百万円
(前期比 1,468百万円増)

SBIバイオテックの完全子会社である米国クォーク社が予定していた成功報酬の一部受領が2015年3月期以降にずれ込んだため通期黒字化の達成はなりませんでしたが、前期に比べ税引前損失は大幅に改善しました。

2014年内にはSBIバイオテックは株式公開を予定しており、またALA関連事業では国内外で順調に医薬品の研究開発が進んでいます。さらに、バーレーンや国内における健康食品のラインナップ拡充、販売取扱店舗数の拡大など早期収益化に向け大きな進展を見せています。

※ 投資用収益物件の開発と販売を行う事業およびインターネットによる仲介サービスサイトの運営等を行う住宅不動産関連事業などは報告セグメントに含まれない「その他」の区分に集計しています。

特集：SBIグループ設立15周年

1999年7月8日にSBIホールディングスの前身であるソフトバンク・インベストメントが設立され、2014年7月に当社は設立15周年を迎えることとなりました。

SBIグループは創業以来一貫して「顧客中心主義」に基づき、低コストで利便性の高い革新的な金融サービスの提供に尽力してまいりました。また、21世紀の新成長産業であるインターネットやバイオテクノロジーの分野を中心にベンチャー企業へ投資し、さらに子会社を通じてSBIグループ自身もバイオ事業へ参入するなど、新産業の育成にも取り組んでまいりました。

15年間で創業当時55人だった従業員数はグループ全体で5,352人に、ゼロからスタートした売上は2014年3月期に過去最高の2,328億円を達成するなど、SBIグループは139社の連結子会社を抱え、1,700万人以上の顧客基盤を持つインターネット総合企業グループとなりました。以下、SBIグループが創業以来15年間で成し遂げてきたことをご紹介します。

① 金融イノベーターとして多様な金融事業分野において飛躍的成長を実現

SBIグループは創業時に事業構築の基本観として、「企業生態系」の形成と「仕組みの差別化」の構築、顧客中心主義の徹底、「ネットワーク価値」の創出、の3点を定めました。これら基本観をもとにSBIグループは金融サービス事業を証券事業からスタートし、銀行、保険を中心として多様な事業会社を含む金融生態系を構築し、事業会社間における相互シナジーを発揮することで、各社は飛躍的な成長を遂げました。それとともに、証券、銀行、保険を中心にインターネットを活用した利便性の高い商品やサービスを、突出した競争力を持つ価格で提供するなど「顧客中心主義」を徹底してきたことで、それぞれ継続して高い顧客満足度を獲得しております。SBIグループでは創業以来、これらの取り組みを徹底してきたことで、現在様々な事業分野において業界No.1を実現しています。

■ 証券、ネット銀行、損保、FX、住宅ローン等様々な領域で業界No.1を獲得

 個人株式委託売買代金 (信用取引含む) ※1 全証券会社 ※2 No.1 ※3 口座数／預り資産 大手ネット証券 ※4 No.1 ※3	 預金残高／貸出残高 ネット銀行 ※5 No.1 ※6	 週刊ダイヤモンド 「自動車保険料ランキング」 6年連続 No.1 ※7	 口座数／預り残高 店頭FX業界 No.1 ※9	 フラット35取り扱いシェア 4年連続 No.1 ※10
※1 国内主要市場（東京・名古屋）第一・第二部、新興市場合計 ※2 東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ウェブサイトの公表資料より当社にて集計 ※3 2014年3月末時点 ※4 カブドットコム証券、松井証券、楽天証券、マネックス証券、SBI証券 ※5 じぶん銀行、ジャパンネット銀行、ソニー銀行、大和ネクスト銀行、楽天銀行、住信SBIネット銀行 ※6 2013年12月末時点 ※7 出典：週刊ダイヤモンド2014年4月5日号 ※8 SBI証券、住信SBIネット銀行、SBI FXトレードの3社合計 ※9 出典：矢野経済研究所発表「有力FX企業17社の月間データランキング2014年3月」 ※10 SBIモーゲージ調べ				

② 新産業クリエイターとして多数の IT、バイオベンチャー企業を育成

SBIグループはこれまでIT、バイオ・ライフサイエンス等の成長分野において国内外多数の有望ベンチャー企業に投資し、EXIT率は17.4％に上っております。

投資先社数累計 978社	国内		海外	
	680社		298社	
累計EXIT社数 170社	国内(社)		海外(社)	
	IPO	M&A	IPO	M&A
	78	19	52	21

※2014年3月末時点

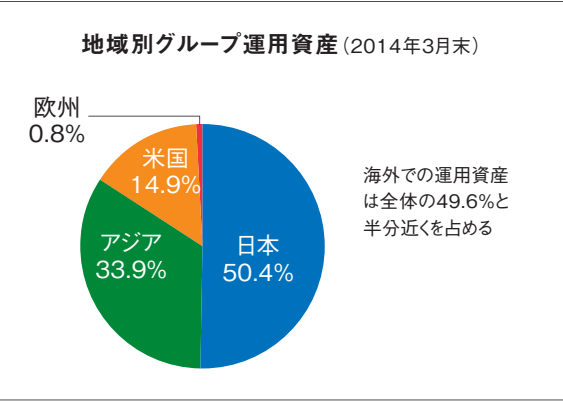
■ バイオ分野へSBIグループ自身も参入



2007年以降、SBIグループ傘下にバイオベンチャーを設立し、次世代の成長分野として位置づけるバイオ分野へ直接的に参入しました。バイオ関連事業では国内外の有力な研究機関やパートナーと研究開発を進めており、医薬品、健康食品等を通して、世界中の方の健康な生活に貢献していくことを目指しております。

③ 成長著しいアジアを中心に海外展開を加速し、グローバル投資体制を構築

SBIグループでは2005年に日本の所得収支が貿易収支を逆転したことを契機に海外展開を加速いたしました。アジアを中心に各国の有力な金融機関、政府系投資機関や大学の投資機関等とのJVファンドの設立により構築したネットワークを最大限活用した結果、現在では海外での運用資産は全体の49.6％と半分近くを占めております。さらに、海外現地有力パートナーとの連携の下、日本で培ったインターネット金融サービスのノウハウを活かした様々な金融サービス事業の海外展開を推進しております。



持続的成長を実現するための重点施策

- ① 金融サービス事業において国内金融生態系内のシナジーをさらに拡大し、収益力の強化を目指す
- ② 当社本来の事業価値の顕在化とROE（株主資本利益率）の向上を図る
- ③ バイオ関連事業の早期収益化を目指す
- ④ 金融サービス事業の海外展開を推進

連結財政状態計算書（百万円）

科目	前期末 2013.3.31	当期末 2014.3.31
資産		
現金及び現金同等物	133,362	276,221
営業債権及びその他の債権	412,477	336,206
証券業関連資産		
預託金	846,445	935,497
信用取引資産	164,935	352,675
その他の証券業関連資産	422,265	451,321
証券業関連資産計	1,433,645	1,739,493
その他の金融資産	26,694	30,593
営業投資有価証券	119,268	127,365
その他の投資有価証券	57,209	49,234
持分法で会計処理されている投資	35,689	39,820
投資不動産	36,355	33,195
有形固定資産	10,517	11,826
無形資産	185,581	196,438
その他の資産	29,928	26,513
繰延税金資産	13,662	8,400
資産合計	2,494,387	2,875,304

POINT ① 資産合計／負債合計

好況な国内のマーケット環境下、SBI証券における取引も大きく拡大しました。そのため、SBI証券では、預託金や信用取引資産等からなる証券業関連資産が前期比約3,058億円増、顧客からの預り金などを含む証券業関連負債が同約3,133億円増と両建てで増加しており、これらが資産合計および負債合計を増大させた大きな要因となりました。

科目	前期末 2013.3.31	当期末 2014.3.31
負債		
社債及び借入金	344,360	440,112
営業債務及びその他の債務	48,894	53,503
証券業関連負債		
信用取引負債	153,612	186,806
有価証券担保借入金	135,609	211,671
顧客からの預り金	387,310	492,159
受入保証金	372,440	439,927
その他の証券業関連負債	255,634	287,350
証券業関連負債計	1,304,605	1,617,913
顧客預金	376,177	302,314
未払法人所得税	2,192	10,362
その他の金融負債	35,371	38,015
その他の負債	15,430	15,767
繰延税金負債	6,823	8,855
負債合計	2,133,852	2,486,841
資本		
資本金	81,668	81,681
資本剰余金	160,550	152,725
自己株式	▲ 5,117	▲ 5,140
その他の資本の構成要素	6,196	16,225
利益剰余金	60,002	80,140
親会社の所有者に帰属する持分合計	303,299	325,631
非支配持分	57,236	62,832
資本合計	360,535	388,463
負債・資本合計	2,494,387	2,875,304

連結損益計算書（百万円）

科目	前期 2012.4.1～2013.3.31	当期 2013.4.1～2014.3.31
営業収益	153,476	232,822
営業費用		
営業原価	▲ 55,275	▲ 68,472
金融費用	▲ 4,612	▲ 18,526
販売費及び一般管理費	▲ 75,231	▲ 95,997
その他の費用	▲ 2,339	▲ 8,934
営業費用合計	▲ 137,457	▲ 191,929
持分法による投資利益	558	1,331
営業利益	16,577	42,224
その他の金融収益・費用		
その他の金融収益	604	514
その他の金融費用	▲ 2,968	▲ 3,839
その他の金融収益・費用合計	▲ 2,364	▲ 3,325
税引前利益	14,213	38,899
法人所得税費用	▲ 7,251	▲ 19,100
当期利益	6,962	19,799
当期利益の帰属		
親会社の所有者	3,202	21,439
非支配持分	3,760	▲ 1,640

POINT ② 営業収益／当期利益

営業収益は日本基準での決算を開示していた期間を含めて過去最高となる約2,328億円（前期比51.7%増）となりました。さらに、当期利益も前期比184.4%増の約198億円と、大幅な増益を達成しています。セグメント別業績についても、当期は全セグメントにおいて大幅な増収増益を達成しています。

連結包括利益計算書（百万円）

科目	前期 2012.4.1～2013.3.31	当期 2013.4.1～2014.3.31
当期利益	6,962	19,799
その他の包括利益		
純損益に振替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて 公正価値で測定する金融資産	▲ 250	979
純損益に振替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	8,579	9,600
キャッシュ・フロー・ヘッジ	49	—
税引後その他の包括利益	8,378	10,579
当期包括利益	15,340	30,378
当期包括利益の帰属		
親会社の所有者	10,839	32,337
非支配持分	4,501	▲ 1,959

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）（百万円）

科目	前期 2012.4.1～2013.3.31	当期 2013.4.1～2014.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲ 36,984	29,401
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 19,060	16,811
財務活動によるキャッシュ・フロー	25,699	92,538
現金及び現金同等物の増減額	▲ 30,345	138,750
現金及び現金同等物の期首残高	159,833	133,362
現金及び現金同等物に係る 為替変動による影響	3,874	4,109
現金及び現金同等物の期末残高	133,362	276,221

POINT ③ 営業活動によるキャッシュ・フロー

当期の税引前利益が約389億円と前期に比べ大幅に増加したことなどにより、営業キャッシュ・フローは前期の約370億円のマイナスから約294億円のプラスへと大きく改善しました。

トピックス ～SBIグループの最近の出来事をご紹介します。

2014年1月、NISA（少額投資非課税制度）スタート

2014年1月から開始したNISAに関して、2014年分の国内株式売買手数料が無料であること、取り扱うNISA対象商品の豊富なラインナップ等が評価され、SBI証券でのNISA口座開設は、約41万口座（2014年3月末）にも上っています。

NISA口座未開設のお客様には、5月より主要ネット証券初^{*1}となるNISA口座開設に伴う住民票の取得代金を無料で行うサービス^{*2}を開始したほか、NISA口座をお持ちの方には、運用にお役立ていただくため、商品選びのサポートなど投資初心者の方にもわかりやすいコンテンツの提供などを積極的に行っています。

※1 「主要ネット証券」とはSBI証券、カドットコム証券、松井証券、マネックス証券、楽天証券の5社。「初」は、金融商品仲介業や対面などを除くもの。 ※2 当サービスの対象となるNISA口座開設お申込期間は2014年6月末日までの予定。



SBI証券、住信SBIネット銀行、SBI損保 顧客満足度調査でNo.1獲得！

2013年度も、第三者機関が行う複数の顧客満足度調査において、SBI証券、住信SBIネット銀行、SBI損保がNo.1の評価をいただきました。また顧客満足度調査だけでなく、カスタマーセンターやホームページにおいても、専門機関より高い評価を得ています。

SBI証券	住信SBIネット銀行	SBI損保
第1位 8年連続！ 2014年度版「オリコン顧客満足度ランキング™」 「ネット証券会社」部門	第1位 5年連続！ JCSI(日本版顧客満足度指数)「銀行業界」 顧客満足度	第1位 6年連続！ 週刊ダイヤモンド「自動車保険料ランキング」 (2014年4月5日号)
カスタマー サービスセンター ★★★ 4年連続！ HDI-Japan 2013年11月度調査「証券業界」 「問合せ窓口格付け」最高ランクの「三つ星」を取得	第1位 2年連続！ 第10回日経金融機関ランキング 世代別顧客満足度 20代・30代	第1位 5年連続！ 2014年度「オリコン顧客満足度ランキング™」 自動車保険部門「保険料の満足度」
カスタマー サービスセンター 最優秀部門賞 3年連続！ 「コンタクトセンター・アワード2013」 「最優秀オペレーション部門賞」	第1位 J.D. パワー 投資サービス満足度 ＜新形態銀行部門＞*	第1位 4年連続！ 価格.com自動車保険満足度ランキング 2013年「保険料に関する満足度」
オフィシャル・ ホームページ ★★★ 3年連続！4回目 HDI-Japan 2013年11月度調査「証券業界」 「サポートポータル(オフィシャル・ホームページ)格付け」 最高ランクの「三つ星」を取得	第1位 日本能率協会総合研究所 住宅関連企業従事者による 「住宅ローン商品の評価」	オフィシャル・ ホームページ ★★★ 2年連続！ HDI-Japan HDI問合せ窓口格付け 2013年度「サポートポータル(オフィシャル・ホーム ページ)部門」最高ランクの「三つ星」を取得

※ 出典：J.D. パワー アジア・パシフィック2013年日本投資サービス顧客満足度調査SM。新形態銀行で投資サービスを利用している顧客3,224名から回答を得た結果。japan.jdpower.com

業界初！住信SBIネット銀行でスマートフォンを利用した「スマート認証」サービス開始

住信SBIネット銀行では、ネットバンキングを悪用した不正送金などのインターネット上での金融犯罪からお客様の財産を守るため、2014年2月より銀行業界で初^{*}となるスマートフォンを利用した認証サービス「スマート認証」を開始しました。

このスマート認証は、従来のパソコンに加え、専用アプリを通じてスマートフォンでも取引認証を行います。異なる2経路からの認証を行うことで、不正ログイン等による不正な取引を防ぎます。

すでに多くのお客様にご利用いただき、「簡単で安心」と好評をいただいています。

※ 国内銀行が提供するスマートフォンアプリとしては初。2014年2月12日現在、住信SBIネット銀行調べ。



韓国国内で、SBIブランドの浸透を図るSBI貯蓄銀行

経営体制を一新し、2013年9月に商号を変更したSBI貯蓄銀行は、昨年秋よりテレビCMや屋外広告などプロモーション活動を行い、韓国国内でのSBIブランドの浸透を図っています。

個人向けローン商品である『パビルローン』は、インターネットや電話で簡単に申込が可能で迅速に融資が受けられるという商品性が関心の的となっています。また、法人向け融資体制の強化により、従来取引のなかった優良中小企業に積極的なアプローチを行い、商号変更後7カ月間で60社に270億円相当の新規融資を実行するなど成果をあげています。

これからもSBIブランドの信用力を最大限活用し、収益力強化に向けた様々な取り組みを積極的に実施してまいります。



ソウル市内で行われたプロモーション活動



屋外広告も大々的に展開



SBI貯蓄銀行店舗の様子



市内を走るバスにも

SBIファーマより医薬品第1号『アラグリオ®』が販売スタート！

2013年9月に、SBIファーマよりALAを利用した医薬品第1号となる『アラグリオ®』の販売が開始されました。

この『アラグリオ®』は、脳のがんである悪性神経膠腫の摘出手術中に特殊な光を当てることで、がん組織を可視化させる経口体内診断薬です。すでにドイツ、イギリス等欧州の20カ国以上では、SBIファーマの事業パートナーであるドイツmedac社が欧州医薬品庁の承認を受け、販売しています。

このほかにもSBIファーマでは、国内外で医薬品等の研究開発を積極的に進めています。



バーレーンでもALAを配合した健康食品が発売！

中東でのALA事業の拠点となるバーレーンでは、すでに販売承認を取得していた健康食品に加えて、ALAを配合した主力商品となる健康食品『NatuALA -ONE-25』[※]の販売が始まりました。

販売については、現地の流通大手であるDawani Group Holdingと健康食品、化粧品の実地マーケティングに関する合弁会社DAWANI SBI TRADING COMPANY W.L.L.を設立し、Dawani Group傘下のスーパーマーケットをはじめ、現地のドラッグストア等で幅広く展開していく予定です。

また、当健康食品のラベルには“Promotes Sugar and Fat Metabolism”（糖質と脂質の代謝を促進），“Promotes Energy Production”（エネルギー産生を促進）と記載されています。

※日本での販売は予定しておりません。



ALA配合の健康食品がSBIアラプロモより続々登場！

SBIアラプロモでは、ALAを配合した健康食品として、2013年7月に『アラプラス ゴールド』、11月に『アラプラス』を発売しました。さらに2014年4月にはALAと美容と健康をサポートする成分を配合した「アラプラス 美シリーズ」の『アラプラス CoQ10』、『アラプラス ビオチン』を通信販売専用の商品として発売しています。

商品拡充の一方で、SBIアラプロモの商品を取り扱うドラッグストア等を全国約2,500店舗にまで広げ、歌手の郷ひろみさんをイメージキャラクターに起用した広告を展開するなど販売促進にも力を注いでいます。



株式会社北村薬局 表参道交差点側

会社概要

社名	SBIホールディングス株式会社
英文表記	SBI Holdings, Inc.
本社	東京都港区六本木一丁目6番1号
事業内容	株式等の保有を通じた企業グループの統括・運営等
設立	1999年7月8日
資本金	816億81百万円
従業員数	連結5,352名 単体172名

役員（2014年4月16日現在）

代表取締役 執行役員社長	北尾 吉孝
取締役 執行役員専務	中川 隆
取締役 執行役員専務	朝倉 智也
取締役 執行役員常務	森田 俊平
取締役 執行役員	李 沛倫
取締役	高村 正人
取締役	田坂 広志
取締役	吉田 正樹
取締役（社外）	永野 紀吉
取締役（社外）	渡邊 啓司
取締役（社外）	玉木 昭宏
取締役（社外）	丸物 正直
取締役（社外）	佐藤 輝英
常勤監査役	藤井 厚司
監査役（社外）	島本 龍次郎
監査役	多田 稔
監査役（社外）	早川 久

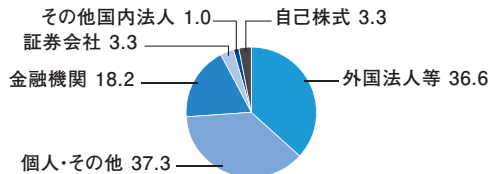
株式の状況

発行可能株式総数	341,690,000 株
発行済株式総数	224,561,761 株
株主数	176,552 名

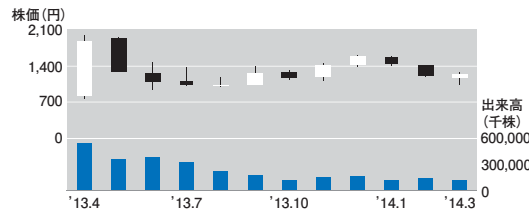
大株主（上位10名）※持株比率は自己株式を控除して計算しています。

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	9,008,530	4.1
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE 15PCT TREATY ACCOUNT	7,868,920	3.6
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	7,343,500	3.3
オーエム04エスエスピークライアントオムニバス	7,318,827	3.3
サジヤツブ	5,476,640	2.5
NORTHERN TRUST GLOBAL SERVICES LIMITED RE 15PCT TREATY ACCOUNT (NON LENDING)	5,024,140	2.3
日本証券金融(株)	5,005,600	2.3
北尾 吉孝	3,807,960	1.7
ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリーティー	2,594,212	1.1
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口6)	2,471,300	1.1

所有者別株式分布状況(%) ※小数点以下第2位を切り捨てて表記しています。



株価／出来高の推移



株主優待制度について

2014年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された株主の皆さまを対象に、株主優待を実施します。

2014年度株主優待の内容

- ① 保有株式数100株(1単元)以上の株主様に、当社子会社のSBIアラプロモ株式会社が販売する健康食品(サプリメント)『アラプラス』(45粒入り)2個を無料で進呈する無料引換申込券を1枚同封しております。
- ② 1年を超えて継続保有いただいている株主様で、かつ2014年3月31日現在の株主名簿における保有株式が1,000株(10単元)以上の株主様^(注)には、上記①の優待に替えて、『アラプラス』(45粒入り)2個および健康食品(サプリメント)『アラプラス ゴールド』(90粒入り)2個を無料で進呈する無料引換申込券を1枚同封しております。

なお、単元未満株式(1～99株)のみをお持ちの株主様を含むすべての株主様に、SBIアラプロモ株式会社が販売する健康食品や化粧品を通常価格から50%割引の優待価格で購入できる割引購入申込券を1枚同封しております。

ご利用方法

- 無料引換申込券
ご希望の方は、同封の議決権行使書から切取線に沿って切り離したうえで、必要事項を記入のうえご返送ください。
- 割引購入申込券
購入ご希望の方は、同封の割引購入申込券(ハガキ)に必要事項を記入のうえご返送ください。

無料引換申込券および割引購入申込券の有効期限

2014年9月末日(当日の消印まで有効)※本株主優待は申込券によるお申込が必要です。

お問合せ

- | | |
|---|--|
| ○ 株主優待に関するお問合せ
みずほ信託銀行 証券代行部
☎ 0120-288-324
(9:00～17:00 土・日・祝日を除く) | ○ 商品に関するお問合せ SBIアラプロモ株式会社
(1) 公式オンラインショップ「ALA Online」
http://www.5-ala.jp/
(2) お電話でのお問合せ
☎ 0120-952-755
(9:00～18:00 年中無休) |
|---|--|

商品の発送について

無料引換申込券により引換のお申込みをされた株主様への商品の発送は、概ね次のとおり予定しております。

- (1) 2014年6月末日までの到着分: 2014年7月末日頃に発送
- (2) 2014年7月末日までの到着分: 2014年8月末日頃に発送
- (3) 2014年9月末日(当日の消印まで有効)までの到着分: 2014年10月下旬に発送

注 1年を超えて継続保有いただいている株主様とは、直近3回のすべての基準日(2013年3月31日、2013年9月30日および2014年3月31日)の当社株主名簿に、同一株主番号で継続して記載または記録されている株主様といたします。株式交換により当社株主となった場合は、その直後の基準日から起算し、株式交換以前の時期との通算はいたしません。また相続、株主名簿からの除籍等により株主番号が変更になった場合も、その直後の基準日から起算いたします。

※ 海外各国の医薬品、食品および化粧品に関する法規制等の関係により、上記無料引換申込券による引換商品ならびに割引購入申込券による購入商品の発送先は日本国内に限ります。

株主優待引換商品のご案内 ～SBIアラプロモが販売する健康食品(サプリメント)



アラプラス 目指せ!「元気系」

ALAとミネラルを配合し、毎日を元気にがんばりたいあなたをサポートします。

- ▶ 1粒あたりALA5mg配合※1
- ▶ 毎日をがんばるためのベースサプリ



アラプラス ゴールド 目指せ!「活力系」

自分らしくアクティブな大人世代のためにALAを贅沢に配合しました。

- ▶ 1粒あたりALA10mg配合※1
- ▶ もっと輝きたいあなたのエイジングケア※2を応援

※1 5-アミノレブリン酸リン酸塩として。
※2 エイジングケアとは年齢相応の状態を保つことです。

詳しくはSBIアラプロモのHPまたは薬局・ドラッグストアまで

上記商品の詳しい情報につきましてはSBIアラプロモのホームページ(<http://www.sbi-alapromo.co.jp/>)、またはSBIアラプロモ公式オンラインショップ「ALA Online アラ・オンライン」(<http://www.5-ala.jp/>)にてご確認ください。

また、SBIアラプロモの商品は全国の薬局・ドラッグストアでもお取り扱いしております。お近くの取扱店舗は下記よりご覧いただけます。

全国取扱い店舗一覧 <http://www.sbi-alapromo.co.jp/shoplist/>

健康と美容にALA

ALA(5-アミノレブリン酸)とは、体内のミトコンドリアで作られる天然のアミノ酸の一種です。

エネルギー生産に関与するヘムやシクロムの原料となる重要な物質ですが、加齢に伴って減少するといわれています。

イメージキャラクターに 郷ひろみさんを起用



「アラプラス」シリーズのイメージキャラクターに歌手の郷ひろみさんを起用しております。